

優秀賞（y a b 山口朝日放送賞） 朗読ボランティアグループ おとづれの会

代表者 水田 愛子（福祉分野／山陽小野田市）

活動の動機・目的

山陽町社協の朗読奉仕者養成講座を受講。修了生の希望者で朗読奉仕グループおとづれの会を結成。音を連れて毎月訪れるボランティアの意味で「つ」に「点てん」のづれとした。当時（1980年頃）視覚障がい者のご家庭から「町からの広報が読めず、不自由をしている」と聞き、まずは声の広報発行を実現。他にも新聞、雑誌その他の出版物からセレクトして収録したテープも発行。

点字が読めない人が圧倒的に多い中、正確で聞き易い音訳・録音に専心し、活動は自分の勉強になり、延いては人格の陶冶をめざす。

活動の内容

①音訳テープづくり

○山陽小野田市広報1日号、15日号 ○市社会福祉協議会広報かけはし

○おとづれセレクション（毎月1回発行）（月刊雑誌、家の光、ゆうゆう、PHP等各新聞他）

高齢者が多いので、わかりやすく、興味がわくことを視点に、季節感のあるもの、タイムリーな内容を織り込む。テープ読者との架け橋になるよう「おとづれの会」のテーマ曲（地元作曲家のご厚意による）を冒頭に流す。テープを通してコミュニケーションを図り、友情を育んでいこうと考え、表紙担当者が自分の目を見た自然のもの、植物、昆虫、景色空雲、自分の体験等を話す。このことで、親近感を持って自分達を「声友（こえとも）」と呼んで下さる。

②高齢者施設訪問

○おとづれの会考案「とび出す紙芝居」上演。

高齢者は平常テレビに慣れているので、耳だけで表現をイメージするのは、難しい様子なので、新たに考案した。自分たちで描いた大きな紙芝居でクライマックス辺りから登場人物が絵と同じ格好をして音楽にのって飛び出し、朗読・セリフに合わせて動作をつける。

音楽は懐メロや唱歌などで、踊りはすべて創作。衣装は古着や不用品で作し、不織布で縫った着物でおとづれ一座は派手に興行をうつ。これまでに「はだかの王様」「浦島太郎」等作成。

○朗読劇上演。

「金色夜叉」「山椒大夫」など、場面の背景や効果音（波の音等）で臨場感たっぷりに演じる。

③中学生・高校生音訳ボランティア講座

平成9年から、町立3中学校に夏休み開催「ジュニア朗読ボランティア講座」受講生の募集をかけ、引率の教師と共に受講された。その後、厚陽中正課クラブで朗読指導の経緯をふまえ、現在は厚狭高校生徒2名が、厚狭公民館で土日を利用して「朗読の基礎練習」を受講中。

これからめざしたいこと

まだ、この音訳テープの存在を知らない方に、福祉の各種行事の際、積極的に参加し、活動啓発チラシを継続配布していく。テープに加えデイジー図書の発行にも取り組んでいく。また、聞き易い読み方研究のため、県点字図書館の講習や音訳講習会への受講、NHK巡回セミナーで指導を受けるなど、研鑽を積んでいく。



おとづれのメンバー



朗読劇上演
婦系図